

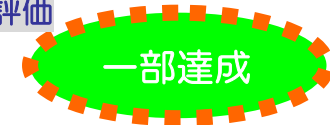
教育部長マニフェスト（評価及び検証）

重点課題 ①

難易度

自己評価

子どもたちの確かな学力の確立



★何を目指すのか、目指すべき方向は？

（評価日）平成27年12月31日

戦略課題の目標

教育委員会が実施した「学校教育に関するアンケート調査（満足度調査）」から、基礎学力を付け、学習意欲を高める取組に関しては、満足度が高いとは言えない結果でありました。また、平成27年1月の「柏原市市民意識調査」でも、「教育指導」に関して重要度に比べ満足度が低いとの結果がでております。これらのことから、学力向上を大きな教育課題として位置づけ、その達成に向けた取組を進めます。

セルフレビュー（自己点検）

子どもたちの確かな学力の確立に向けては、更なる取組が必要と考えます。平成27年度の小学6年生及び中学3年生の「全国学力・学習状況調査」の平均正答率は、中学3年生については昨年度を上回りましたが、共に大阪府の平均正答率を上回ることができず、特に小学生のそれは昨年度よりも下回る結果となりました。その結果には様々の要因が考えられますが、教育委員会としましては、今後とも民間の外部講師や学習教材など民間教育産業の活用しながら、学力向上に向けた施策を実施してまいります。

この重点課題の自己評価は「一部達成」に留まるものと考えます。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

- 児童や生徒の学習意欲の向上と学力の向上を目指します。
 - ・全小学校で、学習習慣の定着と基礎学力の充実のため、放課後学習支援を行います。
 - ・小学校の授業に民間教育事業者を導入します。
 - ・中学校での塾講師による補習事業を拡大します。

- 教員の本来業務を支援し、児童・生徒の確かな学力を醸成します。
 - ・教職員用 ICT の充実を図ります。

取組結果・実施状況

児童・生徒の学力向上には、教育委員会が実施する事業について検討・決定する「学力向上推進委員会」、それぞれの学校での取組む授業研究や職員研修について検証する「学力向上対策委員会」を設置しました。

全小学校で放課後の学習支援として、大阪教育大学や関西福祉科学大学の学生の協力を得て、「柏原市スタディ・アフター・スクール（SAS）事業」を実施しました。

また、柏原小学校及び柏原東小学校の5年生クラスで、民間外部講師による国語科の授業を6月末から週1回実施しました。

中学3年生の希望者を対象に、民間外部講師による数学の放課後補習授業を昨年の4校から6校へ拡大して実施しました。

教職員用 ICT の充実としまして、校務用パソコンを各小学校へ9台、各中学校へ7台をそれぞれ配備しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- 「学力向上推進委員会」及び「学力向上対策委員会」を設置し、学力向上に向けた各校ごとの取組を進めます。
- 小学校全校で「柏原市スタディ・アフター・スクール事業（SAS）」を延べ195回実施します。
- 民間教育産業の人材（塾講師）や教材、資料の活用を推進します。
 - ・ 中学校の塾講師による数学の補習を5校に拡大し延べ135回実施します。
 - ・ 小学校2校で、民間教育事業者による国語の授業を開始します。
- 校務用パソコンを小学校へ各9台、中学校へ各7台を配備します。

取組結果・実施状況

これまで「学力向上推進委員会」を2回、「学力向上対策委員会」を5回それぞれ開催しました。

「柏原市スタディ・アフター・スクール（SAS）事業」を全ての小学校で実施し、3月末までに合わせて304回行いました。

中学3年生の希望者に対し、民間外部講師による数学の補習授業を6中学校で、延べ130回実施し、延べ1,066人の参加がありました。

小学校2校の5年生クラスで、民間教材を使用して民間外部講師による国語の授業を併せて50単位時間（各校25単位時間）実施しました。

校務用パソコンにつきましては、すでに小学校へ各9台、中学校へ各7台を配備しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

- 全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの各教科・区分における本市の平均正答率が、大阪府の平均正答率を上回ります。
- 市民意識調査における「教育指導」の集計結果
満足度 \geq 重要度

取組結果・実施状況

平成27年4月実施の全国学力・学習状況調査の結果は、中学校の一部の教科を除き、小学校・中学校ともに大阪府の平均正答率を上回ることができませんでした。

平成28年1月実施の市民意識調査における「教育指導」の集計結果は、満足度 \geq 重要度とはなりませんでした。満足度が昨年度より0.15上昇し、満足度と重要度の乖離は0.1減少(改善)しています。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

- ・全国学力テストの調査結果をその都度分析と考察を行い、学力向上に向けた取組を実施すること。
- ・2月広報では良い記事が掲載されている。さらに保護者の意見を吸い上げ、また、保護者や生徒から評価してもらう制度を構築し、その結果をオープンにするなど、教師の意識改革につながるような取組を進めること。

(作成日) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

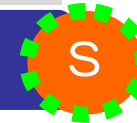
- ・全国学力・学習状況調査によって明らかになった結果を、各学校の指導方法の工夫改善、本市の教育施策に反映していくとともに、市独自の総合学力調査を加えることによって、「柏原の9年間の小中一貫教育」を効果的に進めていく。
- ・SASでは、各小学校での良い取組みを他の学校に広め、交流を活発にするとともに、元教員の巡回を増やし指導を強化するなど、次年度の充実に向け、そのあり方を検討していく。
- ・無償で塾講師による学びの場やネット配信によるプリント教材の提供をし、子どもたちの「学習習慣の確立」や「基礎的な知識・技能の定着」を図っていく。

重点課題 ②

難易度

自己評価

教育環境の整備



★何をを目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成27年12月31日

戦略課題の目標

子どもたちが、安全・安心な質の高い空間で学び、生活ができるよう、いじめの問題を含め、学校内外における安全・安心の確保に努めることが必要です。そのため、児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、また保護者や学校支援ボランティア、地域の関係団体の協力を得て、安全確保のための方策を講じます。また、耐震化工事などによる安全な施設環境の構築や学校の適正規模化など教育環境の質的向上を図ります。

セルフレビュー(自己点検)

教育環境の整備のうち学校校舎の耐震化工事につきましては、当初の予定していた玉手小や国分小、国分中の校舎の耐震化工事を完了しました。また、学校トイレの洋式化は、国分小及び堅上中で実施しました。

いじめ撲滅・いじめ問題への対応として、これまでの各校個別で実施していたアンケートとは別に、教育委員会が全児童・生徒を対象とする新たな「柏原市立小中学校生活アンケート」を実施し、児童や生徒間の実情の把握に努めることで、これまで以上に、いじめ問題を始めとして、学校現場で生じた様々な事象について、教育委員会として学校との情報の共有化を図り、積極的な支援をしてまいりました。

この重点課題の自己評価は「概ね達成」できたものと考えています。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

- 子どもの安全の確保に努めます。
- 安全、安心な施設環境の構築に努めます。
- 小・中学校の適正規模化、適正配置に向けて検討を始めます。
- 市全体でいじめ撲滅・いじめ問題への対応を進めます。
- 柏原中学校区学校施設の統合に向けた取組を始めます。
- 「次世代教育を考える会」を設置します。

取組結果・実施状況

学校施設の安全確保などに向け、今年度予定していた小中学校の校舎耐震化工事や特別教室などへの空調の設置につきましては、昨年12月末まで完了しました。また、学校トイレの洋式化も、国分小及び堅上中で完了しました。

「柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会」を立ち上げ、13回の会議を開催し、昨年10月には中間答申を受けました後、この3月末に答申を受けました。

今年度から児童・生徒を対象とする「柏原市立小中学校生活アンケート」を1学期と2学期の2回実施し、児童や生徒間の実情の把握に努めました。

柏原中学校区学校施設整備事業につきましては、当該事業に係る民間活力導入等計画策定業務委託料予算を確保して、その基本構想、基本計画及びPFI事業の可能性調査を民間事業に委託して、この3月に最終報告を受けました。

市理事者や小中学校の若手教員などから構成された「次世代教育を考える会」を立ち上げ、小中一貫教育の推進に向けた意見交換や施設一体型小中一貫教育校の見学会などを行いました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- 堅上小学校及び堅下南小学校へ遠隔地から通学する児童を対象に6月1日からスクールバスの運行を開始します。
- 玉手小1棟及び附属建物、国分小2棟及び附属建物、国分中1棟の校舎の耐震化工事を行います。
- 小・中学校の特別室及び小学校の支援教室4教室の空調設備工事を行います。
- 「柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会」の設置及び諮問を行います。
- 全児童・生徒を対象にいじめアンケート「柏原市立小中学校生活アンケート」を実施します。
- 「次世代教育を考える会」を6回開催します。

取組結果・実施状況

昨年6月1日から堅上小学校及び堅下南小学校で、遠隔地から通学する児童を対象に、国の補助金を活用して民間委託事業者によるスクールバスの運行を開始しました。

今年度予定していた各校の校舎耐震化工事につきましては、昨年12月末までに完了しました。

「柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会」を立ち上げ、13回の会議を開催し、昨年10月に中間答申を受けた後、この3月に答申を受けました。

児童3,423名及び生徒1,853名を対象に実施した「柏原市立小中学校生活アンケート」の回答内容を教育委員会が取りまとめ、分析した内容を各校へ情報提供しました。それを受け、各校において児童・生徒の生活状況等の把握に努め、担任教諭などが個別に対応いたしました。

市理事者や小中学校の若手教員などから構成された「次世代教育を考える会」を立ち上げ、小中一貫教育の推進に向けた意見交換や施設一体型小中一貫教育校の見学会など、これまで4回開催しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

- 柏原市立小中学校アンケートにおける「学校へ行くのが楽しい」児童・生徒を増やします。
- 「柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会」から中間報告及び答申を求めます。
- 市民意識調査における「教育環境」の集計結果
満足度 \geq 重要度

取組結果・実施状況

今年度2回実施しました柏原市立小中学校アンケートの回答結果のうち、質問項目「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童・生徒の割合につきましては、第1回目と第2回目の結果が、小学校低学年は90.0%と88.3%で、同高学年は76.7%と75.1%、中学生では、71.3%と69.8%となりました。

柏原市立小・中学校の適正規模・適正配置審議会を立ち上げ、13回の会議を開催し、昨年10月に中間答申を受けた後、この3月末までに答申を受けました。

平成28年1月実施の市民意識調査における「教育環境」の集計結果は、満足度 \geq 重要度とはなりませんでした。また満足度と重要度の乖離幅は昨年と同じでした。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(B) 奨励 : 頑張って目標を達成し、満足できる結果である。さらなる向上を目指してもらいたい。

市長のコメント

- ・ 適正規模適正配置審議会の答申を受け、今後の方向性や考え方について市民に示すこと。
- ・ 次世代教育を考える会について、意見交換や学校現場の視察などを重ねることで、小中一貫教育の推進に向けた成果につなげていくこと。
- ・ いじめ問題の対応については、学校からの報告や情報の収集を徹底して行うこと。

(作成日) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

- ・ 引き続き、次世代教育を考える会を実施し、意見交換、視察を行い、それらの成果物として冊子をつくり、市民へ情報発信する。
- ・ 今年度作成した、生徒指導の事案・事象報告フォーマットを活用し、保護者や市民に対して信頼関係を損なうことがないよう情報収集を行う。

教育機会の均等と確保



★何をを目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成27年12月31日

戦略課題の目標

全ての子どもたちに教育機会を保障するため、支援を必要とする子どもについては、障がいの状況に応じて、一人ひとりのニーズに対する適切な教育を進めます。また、経済的な理由によって就学が難しい子どもの保護者に対して、必要な援助を行い、適切かつ迅速な就学支援に努めます。

セルフレビュー(自己点検)

これまでも障がいのある幼児、児童及び生徒に対し、必要な支援や適切な教育を行ってまいりました。

就学に際し、保護者の経済的な負担を軽減する制度である就学援助に加え、障がいのある児童・生徒の保護者に対しては、新たに支援教育就学奨励費制度を創設しました。

また、小学校に4人、中学校に7人のスクールカウンセラーを配置するとともに、介助を必要な園児、児童及び生徒に対しても必要な介助員を配置しております。

この重点課題の自己評価は「概ね達成」できたものと考えています。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

- 障がいの状況に応じて適切な支援や配慮が可能となるようスクールカウンセラーの相談体制の充実に努めます。
- 障がいのある子どもたちの移動や日常生活の介助及び学習面を支援する人材の配置に努めます。
- 新たに支援教育就学奨励費制度を創設します。
- 就学援助や支援教育就学奨励費をそれぞれの基準にそって速やかに支援を実施します。

取組結果・実施状況

スクールカウンセラーの配置につきましては、市の費用負担として小学校には昨年度の3人から1人増員して4人体制としました。また中学校には7人（大阪府費用負担）を配置しました。

介助を必要とする園児、児童及び生徒に対し、幼稚園5人、小学校34人（看護師2人を含む）及び中学校10人、合計49人の介助員を配置しています。

就学援助制度のうち中学入学関連費（小学6年生対象）の支給につきましては、平成28年度の支給に向けた事務を完了しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- 小学校へのスクールカウンセラーを3人から4人に増員します。
- 小学校・中学校へ必要な介助員を配置します。
- 就学援助制度のうち中学入学関連費の年度内支給を実施します。

取組結果・実施状況

小学校のスクールカウンセラーを3人から1人増員して4人体制とし、また中学校には7人(大阪府費用負担)を配置しました。介助員につきましては、幼稚園5名、小学校34人(看護師2人を含む)及び中学校10人、合計49人を配置しています。就学援助制度のうち中学入学関連費の支給につきましては、平成28年度の支給に向けた事務を完了しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

- 児童や保護者などが抱える不安や悩みが解消します。
- 障がいをお持ちの児童・生徒の保護者の負担を軽減します。
- 就学援助などが必要な保護者へ支援を実施します。

取組結果・実施状況

スクールカウンセラーが児童や保護者から受けた相談は、2,015件(平成28年3月末現在)となっています。うち児童からは436件、保護者からは548件、教職員1,031件となっています。就学援助費につきましては、支給対象となる児童682人及び生徒493人の保護者へ支給しています。また、新たに創設した支援教育就学奨励費につきましては、児童58人及び生徒25人の保護者へ支給しました。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

- ・引き続きスクールカウンセラーの配置により、児童生徒、保護者や教師が抱える不安や問題の解消に向けて取り組むこと

(作成日) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

- ・スクールカウンセラーを市内全小中学校に配置し、巡回相談、関係機関との連携をし、相談体制を一層充実させる。

青少年の健全育成



★何をを目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成27年12月31日

戦略課題の目標

「地域の子は、地域で育てる」の意識を高めて、青少年がたくましく健やかに成長することを目標に、学校、家庭及び地域社会が一体となり青少年の育成を進めます。

セルフレビュー(自己点検)

学校、家庭及び地域が協働して、青少年の健全育成の環境づくりに取組み、青少年のたくましく健やかな成長をサポートしてまいりました。

この重点課題の自己評価は「概ね達成」できたものと考えます。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

- 青少年健全育成活動の推進
- 青少年講座の充実
 - ・ 青少年講座の実施内容を一部見直し、新たに2講座を市内の大学と連携して開催します。
- 社会教育団体、青少年育成団体が行う事業や活動を支援します。

取組結果・実施状況

青少年健全育成活動として、平成19年度から実施している「通学合宿」を今年度は玉手小学校及び旭ヶ丘小学校の高学年の児童20名の参加のもと、9月13日から15日までの2泊3日で実施しました。

青少年講座の開催につきまして、「夏休み星空観察講座」及び「春休み星空観察講座」を大阪教育大学とまた、「歴史講座」及び「科学講座」を関西福祉科学大学とそれぞれの大学からの協力を得て、実施しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- 「放課後子ども教室」を市内全小学校10校で実施し、その参加者数を4,500人以上とします。
- 青少年講座を実施し、その受講者数を240人以上とします。

取組結果・実施状況

「放課後子ども教室」を市内全小学校10校及び1団体で実施しました。その参加者数は4,308人となりました。

青少年講座として、「青少年つり入門講座（前期、後期各3回）」、「青少年つり入門（野外実技講習会）」、「夏休み昆虫観察講座」、「夏休み星空観察講座」、「歴史講座」及び「科学講座」を開催し、それらの受講者数は315人となりました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

- 子どもたちが地域とのつながりの中で健全に育つまちの実現を目指します。
- 市民意識調査における「青少年の健全育成」の集計結果
満足度 \geq 重要度

取組結果・実施状況

平成28年1月実施の市民意識調査における「青少年の健全育成」の集計結果は、満足度 \geq 重要度とはなりませんでした。昨年度結果より満足度が0.14上昇し、満足度と重要度の乖離幅は0.06減少(改善)しました。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

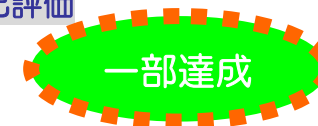
- ・ 青少年健全育成会については、小中一貫教育の方向性を見極め、組織や活動などの改革を始めること。

(作成日) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

- ・ 小中一貫教育体制のうち、2小1中校区については2小学校間及び各小学校と中学校の迅速な情報の共有や子ども同士、大人同士の交流がさらに盛んになるよう取り組みます。

スポーツの振興



★何をを目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成27年12月31日

戦略課題の目標

健康への関心が高まる中、市民のスポーツによる健康増進を進めるため、スポーツが健康増進や体力向上にもたらす効果など、スポーツの重要性に関する情報を市民へ提供するとともに、誰もが身近な地域で気軽にスポーツに親しむことができる機会づくりや、新たなスポーツの普及を目指します。

セルフレビュー(自己点検)

市立体育館や庭球場などのスポーツ施設だけでなく、小・中学校の体育施設を市民利用に供し、スポーツを通じて幼児から高齢者までの市民の健康増進や体力向上に寄与するための環境づくりに努めてまいりました。

また、体育施設の管理・運営につきましては、民間事業者による指定管理により、利用者サービスの向上と利用促進、ランニングコストの削減に努めています。

この重点課題の自己評価は「概ね達成」できたものと考えます。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

- スポーツの推進
 - ・ 第3回スポーツフェスティバル in 柏原、2016 柏原シティキャンパスマラソンを開催します。
 - ・ 関係部局と連携し、サイクルスポーツの普及に向け取り組みます。
- スポーツ環境の充実
 - ・ 運動広場や体育施設の柔軟な管理・運営を図ります。
 - ・ 市立体育館での多彩なスポーツ教室を開催します。

取組結果・実施状況

スポーツの推進につきましては、第3回スポーツフェスティバル in 柏原を平成27年11月7日に開催しました。また、2016 柏原シティキャンパスマラソンをこの2月21日に開催します。なお、大阪教育大学の要請により開催日が例年の3月からこの2月の開催となりました。

スポーツ環境の充実につきましては、スポーツ施設の管理・運営に実績のある民間事業者を指定管理者として市民ニーズに応じた利用しやすい施設運営等を行っています。また一部スポーツ施設では利用時間の延長を行うなど弾力的な運営も行っています。

市立体育館では、幼児から高齢者までを対象に多種目のスポーツ教室を延べ1,140回開催しました。(平成28年3月25日現在)

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- 第3回スポーツフェスティバル in 柏原への参加者を昨年度実績（1,372人）以上とします。また、サイクルスポーツ普及のため、ストライダー教室を開催します。
- 2016柏原シティキャンパスマラソンへの参加者を昨年実績（964人）以上とします。
- 学校体育施設の利用者を昨年実績（250,000人）以上とします。

取組結果・実施状況

平成27年11月7日開催の第3回スポーツフェスティバル in 柏原への参加者は1,305名で、昨年度実績（1,372人）には及びませんでした。各競技への延べ参加者数は7,234人で昨年の6,321人を大幅に上回りました。また、同時にサイクルスポーツ普及のため、ストライダー教室を同時開催しました。

2016柏原シティキャンパスマラソン（平成28年2月21日開催）への参加申込者は、999人（参加者865人）となりました。

小・中学校体育施設の利用者につきましては、平成27年4月から平成28年3月25日までで178,274人となっています。また、市立体育館では、幼児から高齢者までを対象に多種目のスポーツ教室を延べ1,140回開催し、参加者は延べ24,970人となりました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

- 市民が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに努めます。
- 市民意識調査における「スポーツ振興」の集計結果
満足度 \geq 重要度

取組結果・実施状況

平成28年1月実施の市民意識調査における「スポーツ振興」の集計結果は、満足度 \geq 重要度とはなりませんでした。昨年度結果より満足度が0.11、重要度は0.03それぞれ上昇し、満足度と重要度の乖離幅は0.08減少(改善)しました。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

- ・「自転車のまち」として、市民を対象としたイベントなどを関係部署と連携して実施していくこと。

(作成日) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

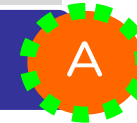
- ・ 関係部署及び関係団体との連携を常に心がけ、新たなスポーツの普及をさらに進めてまいります。

重点課題 ⑥

難易度

自己評価

生涯学習の充実



★何をを目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成27年12月31日

戦略課題の目標

全ての世代のライフステージや市民ニーズに応じた多様な学習の内容や環境を整えるとともに学習により習得した知識や技術を地域に還元できる地域社会を目指します。

セルフレビュー(自己点検)

ライフステージや市民ニーズに応じて様々な生涯学習事業を実施する一方、それらに関する情報を市民に提供し、市民の生涯学習環境の整備に努めました。

特に、新たにオープンした自然体験学習施設「スマイルランド」の今年度の利用者数は、当初予想していた2,600人を大幅に超え、約1万人に達しています。また既存の公民課や図書館、歴史資料館においても様々な取組みにより、昨年度並みの利用があるものと考えます。

そのため重点課題の自己評価は「概ね達成」できたものと考えます。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

- ライフステージに応じた多様な学習機会を提供します。
- 社会教育施設を使用した生涯学習を推進します。
 - ・ 特に7月1日からオープンする自然体験学習施設の利用した事業の実施
- 公民館の活用を進めます。
- 図書館の活用を進めます。
- 文化財の保存、整備及び活用を進めます。
- 「柏原学」の推進に向け、取り組みます。

取組結果・実施状況

教育委員会が収集可能な生涯学習に関するイベント、講座及び教室などの開催情報を掲載した「かしわら生涯学習情報ニュース」を半年ごとに発行することで市民への情報提供を行いました。

7月1日からオープンした自然体験学習施設「スマイルランド」を利用した自主事業として14事業を実施しました。

公民館では、市民の生涯学習の場として、公民館講座（春・秋期）9、教養・基礎講座15、教養講座6の合計30講座を開催しました。

図書館では、開かれた図書館を目指し、更なる利用促進に向け、フェイスブックやツイッターなど活用して図書館情報を提供しています。また、図書館の主催行事（イベント）を76回、地域ボランティアとの共催行事を41回、それぞれ開催しました。

歴史資料館では、企画展（4回）、文化講演会（3回）、市民歴史大学（4回）、文化財講座（11回）及び体験教室（2回）を開催し、史跡高井田横穴特別公開も2回実施しました。また、新たに企画として、奈良県王寺町、三郷町及び本市が共催して、「亀の瀬の歴史」の巡回展を実施しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- 自然体験学習施設を活用した事業を実施します。
 - ・自然体験学習施設 利用者数：2,600人以上
- 多様なニーズに応じた公民館講座を開催します。
 - ・公民館講座 受講者数：400人以上
 - ・市民文化祭 参加者数：17,000人以上
- 図書館利用者数等と拡大します。
 - ・図書貸出冊数：450,000冊以上及び貸出人数：125,000人以上
- 幼児向けの「お話会」や「紙芝居等」を始め、多様なニーズに対応した図書館行事を開催します。
 - ・「お話会」及び「紙芝居等」：1,800人以上
- 市民文化会館（リビエールホール）を利用した市民参加型イベントを開催します。
 - ・リビエールホールでの市民参加型イベントへの参加者数：5,300人以上
- 歴史資料館の企画展や史跡高井田横穴の特別公開を実施します。
 - ・歴史資料館入館者：18,000人以上
 - ・史跡高井田横穴特別公開参加者：300人以上
 以上の事業について、その参加者数や利用者数等を昨年度実績以上とします。

取組結果・実施状況

自然体験学習施設「スマイルランド」を活用した自主事業として、14事業を実施し、同施設のオープン以来の利用者数は12,800人となりました

公民館では、30講座（春・秋期講座9、教養・基礎講座16及び教養講座6）を開催し、受講者数は466人でありました。

また、市民文化祭を平成27年10月10日から18日までの7日間開催し、参加者が13,464人でありました。

柏原・国分の両図書館では、図書貸出冊数が434,697冊、貸出人数は119,487人となっています。また、「お話会」や「紙芝居等」への参加者数は4,822人となりました。（平成28年3月末現在）

市民文化会館での市民参加型イベントとして「わくわくフェスタ」や「第九交響曲クリスマスコンサート」など7事業を実施し、7,083人の参加がありました。

歴史資料館では、実施した4回の企画展への入館者も含め2月末までの総入館者は18,369人となり、また史跡高井田横穴特別公開を2回開催し、その参加者は197人となりました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

- 誰もが気軽に学習ができる環境づくりに努めます。
- 市民意識調査における「生涯学習」の集計結果
満足度 \geq 重要度

取組結果・実施状況

平成28年1月実施の市民意識調査における「生涯学習」の集計結果は、満足度 \geq 重要度とはなりませんでしたが、昨年度結果より満足度が0.09、重要度は0.02それぞれ上昇し、満足度と重要度の乖離幅は0.07減少(改善)しました。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

・ 柏原のお土産やパンフレットなどをセットにして、市内小中学校等の視察に来られた際に持ち帰りしてもらえるよう、柏原市をPRできるものを用意しておくこと。

(作成日) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

・ 社会教育課、スポーツ推進課、公民館、図書館、文化財課が連携し、施設のパンフレット及び行事案内等を用意し、柏原市のPRに努めます。